

(1) 平成29年度 教職員による自己評価 及び 学校関係者評価

静岡雙葉中学校・高等学校

| 評価項目 | | 自己評価 | 学校関係者評価 | | |
|---|--|------|--|---|---|
| 1 | 宗教教育の充実・精神性の涵養 ①宗教の授業、宗教行事、聖堂での朝の祈り、朝礼時に聖歌を歌うことを通して、豊かな心を育む。 ②精神性を育むために、学年毎の1年間の経営計画に則って、多面的に活動する。 【実践と自己評価】①各学年の宗教行事は、いずれも充実した内容で実施され成果を上げた。 ②学年毎の学年経営計画では、精神性の涵養を目指した様々な取組みが実施された。 【学校関係者評価を受けて】カトリック学校として、生徒たちの精神面の成長を大切に、行事や活動がマンネリ化することのないように気を配り、より多面的な取組みを心がけたい。 | A | A | 宗教の授業や宗教行事を通して、生徒1人ひとりが自分の生き方を振り返る機会を全学年に設けていることが、雙葉の教育の大事な基盤になっている。今後も、本校らしい取組みを続けて頂きたい。 | |
| | 学習指導の充実・学力の向上 ①学年毎の教育計画、各教科の実践計画に基づき、計画的に教科教育を実施する。 ②基礎・基本の定着、授業中心の学習体制の確立により、学力の向上を図る。 ③教員1人ひとりがより良い授業を行うための具体的取組みを行う。 ④ICT機器を使つての主体的学習やアクティブラーニングを取入れた授業展開について研究し、実践する。 ⑤知的好奇心を高めるため、また視野を広げるため、海外研修、英語検定試験等の各種検定、大学が企画するセミナー、公開講座への積極的参加を促す。 【実践と自己評価】①学年、教科毎の研究・研修計画に基づき、成長時期に応じた学習指導が実施された。 ②中学では、学年毎に、試験前の朝や放課後の自習教室が定着し、自己学習力が向上してきた。高校では試験分析シートを活用して、目標設定と振り返りを行ない、苦手科目の克服を行っている。 ③④授業でのiPadの活用と公開授業を行ない、授業でのより効果的な活用について研究を進めた。 ⑤中学生の英検の受験率を上げる取組みを行った。高校生についても、資格取得数および取得級の向上が見られ、各種検定試験にチャレンジし資格を取得した生徒も多いる。 【学校関係者評価を受けて】年間の指導計画を大切にしながらも、教員1人ひとりの授業力の向上を目指し、一層の努力をしたい。ICT教育については、教科毎に研究を進めている。 | A | | A | 6カ年を見通した学年毎、教科毎の指導計画が確立されており、それに基づく授業中心の学習により、生徒たちの学力の向上、定着が図られている。新しい学習内容を踏まえて、更なる改善を期待したい。 英検の取得率の向上が見られたとのことだが、新共通テストの英語の対策として、外部試験の有効な活用を進めて欲しい。また、時代の流れに応じて、ICT機器の活用、効果的使用法についての研究を、学校全体で今以上に進めて頂きたい。 |
| | 自律性や社会性及び公共心の育成(生徒指導) ①基本的な生活習慣の確立に努める。 ②公共心や社会的規範意識の育成を図るとともに、インターネットの功罪の学習、活用について学ぶ。 ③社会性、自治能力、自律心の育成を図るため、生徒会活動、委員会活動、学級・学年活動を充実させる。 ④豊かな精神性を培うため、福祉施設訪問、ボランティア活動、各種献金活動を充実させる。 【実践と自己評価】①全校での挨拶の徹底を呼びかけた。中3、高1では、今年もアクションプランナー手帳を活用して時間管理の指導を行った。 ②中学校ではスマートフォンの使用に関して学年の約束事を決めて、家庭と連携を図り、適切な使用ができるよう指導している。高1・高2では「ネット社会について」の講演会を実施し、様々なトラブルや、スマホ利用と学習効果についての話が生徒達の良い学びとなった。 ③④あしなが学生募金活動には、今年も多くの生徒が積極的に参加した。中二ではフィリピンの災害支援プロジェクトとして、衣類と文房具を送る活動を実施した。 【学校関係者評価を受けて】基本的な生活習慣の確立には、家庭の協力が不可欠なので、スマートフォンの使い方を含めて、できる限り家庭の協力を得ながら、生徒の成長を支援していきたい。 | A | | A | 基本的な生活習慣の定着や、社会性を育てることについては、これまで通り大切にしていきたい。 スマートフォン、インターネットなどの使い方についても、最新の情報をもとに、今後とも適切な指導をお願いしたい。 ボランティア活動や様々な支援活動に、多くの生徒が積極的に参加しているということは、本校の精神を具現化するものであり、生徒の心を育てることに役立っていると感じる。 |
| たくましく未来を切り開く力の育成(進路指導) ①中2、中3の職業体験学習の充実、著名人や大学教授・先輩等による講演実施、校外のオープンセミナー、大学見学、海外研修等や様々な体験活動等への生徒の積極的参加を促す。 ②大学入試の最新情報を常に把握し、的確な進路情報を生徒・保護者に提供する。 【実践と自己評価】①②中2の職場体験は、11月に静岡・富士市などの全55カ所の保育園、老人ホームで実施した。高1・高2では進学講演会、大学出張講義をそれぞれ実施した。中1は、中3次からのコース制導入に向けて、鎌倉歴史ハイキング(7・12月)や「ふじのくに地球環境史ミュージアム」でのバックヤード体験などを企画、実施した。「世界にはばたく女性」講演会は、今年も3回実施し、生徒達は多くの刺激を受けた。夏のイギリス研修には高1・中3が合計38名参加、他にも高1・中3の8名が個人でアメリカ、オーストラリア、イギリスでの語学研修に参加した。1月からは中3で4名が3ヶ月のニュージーランドターム留学に参加した。 【学校関係者評価を受けて】卒業生の進路選択には、在校時の様々な体験学習が影響している。今後も様々な体験を企画、実施していきたい。大学入試については、アンテナを高くして最新情報の把握に努めたい。 | A | A | キャリア教育や講演会など、生徒たちの進路選択とその実現に向けた取組みが充実していることは評価に値する。更に、1年後に導入が予定されている「コース制」に向けて、生徒の志を育むための体験学習の企画と準備を進めて頂きたい。大学入試の変更については、引き続き、最新の情報を生徒、保護者に提供できるように努力して頂きたい。 | | |
| 生命の安全確保 ①大規模災害に備え、総合的防災マニュアルを見返し、実践につなげる。 ②災害時、学校への宿泊を想定した防災備品の充実を図る。 ③年度計画に基づき、校内施設、設備の点検、特に防火設備、防災設備の点検を確実にこなす。 ④生徒が、自分の命を自分で守れるよう、防災訓練等をより実践的なものにして、地震・火災への防災意識と危機対応能力を高める。 【実践と自己評価】①地震発生時における教員の対応の要点マニュアルを作成し、緊急時の対応を確認し合った。 ②卒業時に乾パンや飲料水を持ち帰らせるなど、消費期限を念頭に置いた備蓄品の管理を行っている。 ③計画通り、点検を行った。 ④長期休み明けごとの避難訓練に加え、11月には生徒に予告なしの地震避難訓練を実施した。 【学校関係者評価を受けて】防災マニュアルについては、今後も見直しと改善を続けていく。防災訓練、避難訓練も、内容を見直し、より実践的な訓練を実施していきたい。 | B | B | 大規模災害に備えて、耐震性の高い校舎、防災備品の充実など、生徒の安全、安心を確保できる環境が整えられていることは評価できる。 防災マニュアルについては、常に見直し、現状に則したものにしていける必要がある。 | | |
| (学校側のまとめ) 各学年の宗教行事や、精神面、学習面の成長を図るための学年経営計画の取組みが軌道に乗り、着実に成果があがっていると実感できる。ICT教育や1年後からいよいよ実施となる「コース制」については、今までの積み重ねを基に、具体的な指導内容について活発に研究がなされ、検討、準備が進んでいる。 | (学校関係者評価委員会のまとめ) 学力の向上と精神性の涵養をバックボーンにした静岡雙葉の教育理念が6ヶ年を見通した指導計画と教育実践の中に具現化されていると感じる。将来の目標設定、自己実現のために役立つ講演会、海外研修、社会実習、種々のボランティア活動などは大変有意義であり、評価できる。今後も更に充実した教育活動を展開し、教育環境の整備を図ることを期待したい。 | | | | |

自己評価 : A 良くできた B できている C 改善を要する D より努力が必要

学校関係者評価 : A 大変評価できる B 評価できる C 改善を要する D 評価できない